

日本人乳癌におけるBRCA1、BRCA2のLOHと臨床病理学的因子との関連

『研究対象者の方へ』

当研究は当第二外科において1994年から2007年までに乳癌を切除した方を対象に研究させていただきます。

【はじめに】

BRCA1、BRCA2は癌抑制遺伝子で、相同組み換え修復という遺伝子損傷の修復に関与していると言われています。

また、BRCA1、BRCA2の変異が家族性乳癌の原因とも言われています。

家族性乳癌以外の方では、変異は稀ですが、遺伝子の2本鎖のうち1本鎖の遺伝子情報の一部が欠失する異常(ヘテロ接合性の喪失:以下LOH)が家族性ではない乳癌患者さんにも見られると言われています。ただ、その意義はまだ分かっておりません。

乳癌患者さんにおけるBRCA1、BRCA2のLOHを調べることで、将来、乳癌の患者さんに有益な結果を得ることができる可能性があります。

【研究内容】

当九州大学消化器・総合外科(第二外科)において切除された乳癌の病変を使って、BRCA1、BRCA2にLOHが起こっているか否かを調べます。また、BRCA1、BRCA2のmRNAの発現量を測定し、発現量とLOHの有無との関係を調べます。

この結果と患者さんの背景、予後を比較し、BRCA1、BRCA2のLOHが乳癌においてどういった影響を持つのかを考察します。

【研究期間】

研究を行う期間は2010年3月末までと考えております。

【医学上の貢献】

この研究により乳癌におけるBRCA1、BRCA2のLOHと患者さんの背景、予後との関連が示唆されれば、予後予測因子ともなると予想され、医学上の貢献があるものと考えます。

【研究機関】

九州大学大学院

消化器・総合外科(第二外科)

教授 前原 喜彦

准教授 掛地 吉弘

講師 森田 勝

医員 岡田 敏子

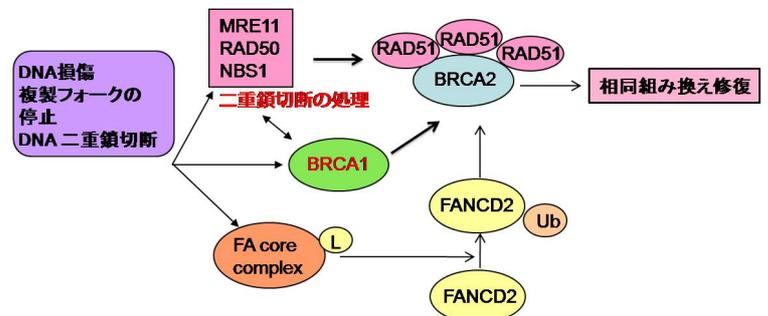
がん先端医療応用学

准教授 江見 泰徳

女性医療人きらめきプロジェクト

特任講師 徳永 えり子

BRCA1、BRCA2と相同組み換え修復



連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466